



CONTENTS

- 2006年度「学生による授業アンケート」結果報告
- 2006年度「学生による授業アンケート」集計結果
- 「授業アンケート」について
 - FD推進委員会委員としての年を振り返って
佐藤 秀孝
 - アンケートのさらなる活用を
杉山 清彦
 - 一つの想念
吉野 紀
 - 授業アンケートについて
三竹 直哉
 - FD活動の現状と課題
中村 公一
 - 睡魔に勝つための授業づくり・・・
奥山 康男
 - 授業アンケートの目的について考える
苗村 憲司
 - 「わかりやすさ」という授業観の落とし穴
萩原 建次郎
 - 短期大学国文科のFD活動
坂口 博規
 - 学生アンケートに想う
奥野 光賢

2006年度

「学生による授業アンケート」結果報告

3年目を迎えた「学生による授業アンケート」は、今年度も計画どおり、前期1回、後期1回実施しました。演習科目、集中講義科目を除くアンケート対象科目は、受講者数が20人以上の担当科目の中から専任教員は2科目、非常勤教員は1科目とし、教職員のご協力により無事終了しました。

授業アンケート回答欄に関しては、最高点を統一してほしいとの要望に配慮しました。教員送付のアンケート集計結果においては、『履修にあたって「講義内容・授業計画」をよく読みましたか。』『授業の難易度はどうでしたか。』は別のカテゴリにして記載しました。また、講義科目平均点の算出に関しては、『「講義内容・授業計画」はわかりやすかったですか。』Q6の項目から『この授業について全体的な満足度をお聞かせください。』Q14の項目までを使用しました。

今年度のアンケート集計数値（講義項目）と昨年度とを比較すると、授業の改善があきらかに図られていることがわかります。日頃からより良い授業を目指す教員の努力の成果が数字になって現れております。今後さらに望まれる、高度な研究に裏打ちされた教育の質的向上のためには、目的に見合った達成目標値の設定なども必要であろうと思われます。

（FD推進委員会委員：高野秀夫）

1. 実施期間

前期（前期終了科目対象）：2006.6.19～6.24

後期（後期・通年科目対象）：2006.11.8～11.14

上記期間の該当科目の授業時間中に実施した。

2. アンケート用紙の種類

講義科目 実験・実習科目 語学科目 保健体育実技科目

3. 対象科目数および対象学生数

専任教員2科目、非常勤教員1科目を対象とした。

前期 141科目 9,428人（延べ人数）

後期 1,032科目 100,329人（延べ人数）

4. 実施科目数および回答数

前期 141科目（100%） 6,421人（68.1%）

後期 1,030科目（99.8%） 44,656人（44.5%）

2006年度 「学生による授業アンケート」集計結果

1. 個別項目についての学科・専攻別平均値

表1-1～表4は、5段階で評価された各項目について、項目別平均値を示したものである。

なお、有効回答のあった学部・学科のみ掲載した。

数値の見方： を付した項目以外は、5が高得点、1が低得点である。

表1-1 講義科目

学部 学科 専攻	仏 教学部 禅	仏 教学部 仏教	文 学部 国文	文 学部 英米文	文 学部 地域文化	文 学部 地域環境	文 学部 歴史	文 学部 日本史学	文 学部 外国史学	文 学部 考古学	文 学部 社会学	文 学部 社会福祉学	文 学部 心理
Q1	4.3	4.5	4.6	4.5	4.6	4.6	4.5	4.6	4.6	4.6	4.5	4.7	4.6
Q2	3.4	3.5	3.4	3.5	3.5	3.5	3.5	3.4	3.5	3.3	3.2	2.9	3.3
Q3	3.4	3.5	3.5	3.5	3.5	3.6	3.5	3.4	3.5	3.4	3.2	3.5	3.3
Q4	3.2	3.2	3.2	3.2	3.2	3.2	3.2	3.2	3.2	3.2	3.2	3.3	3.2
Q5	3.5	3.5	3.4	3.5	3.5	3.4	3.4	3.5	3.5	3.4	3.5	3.6	3.6
Q6	3.4	3.4	3.4	3.3	3.4	3.4	3.4	3.3	3.4	3.3	3.2	3.2	3.3
Q7	3.6	3.6	3.7	3.6	3.6	3.6	3.7	3.6	3.6	3.5	3.5	3.4	3.5
Q8	3.6	3.7	3.9	3.7	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.6	3.8	3.6
Q9	4.0	4.0	4.1	4.0	3.9	4.0	4.0	3.9	4.0	3.9	3.9	4.1	3.9
Q10	3.5	3.5	3.5	3.4	3.5	3.5	3.5	3.5	3.4	3.4	3.3	3.5	3.3
Q11	3.6	3.7	3.7	3.5	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.5	3.4	3.6	3.5
Q12	3.2	3.3	3.3	3.2	3.3	3.4	3.3	3.2	3.3	3.3	3.0	3.1	3.2
Q13	3.5	3.5	3.5	3.4	3.5	3.5	3.5	3.4	3.5	3.4	3.2	3.4	3.3
Q14	3.5	3.6	3.6	3.5	3.6	3.6	3.6	3.5	3.6	3.5	3.4	3.6	3.5
Q15	3.8	3.8	3.9	3.8	3.9	3.9	3.7	3.7	3.7	3.9	3.9	3.8	3.9
Q16	3.9	3.8	3.9	3.9	3.9	3.9	3.8	3.8	3.8	3.9	3.8	3.8	3.8
Q17	3.9	3.8	3.9	4.0	3.7	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	4.0	3.8
Q18	3.9	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.9	3.8	3.8	3.7	3.8	3.9	3.7
Q19	3.6	3.6	3.5	3.5	3.4	3.5	3.5	3.5	3.4	3.3	3.5	3.6	3.5
有効回答数	865	1,359	2,407	1,693	1,181	1,004	825	1,316	757	545	951	1,363	1,513

- Q 1. あなたの出席率は何%ぐらいでしたか。
- Q 2. 履修にあたって「講義内容・授業計画」をよく読みましたか。
- Q 3. 授業に熱心に取り組みましたか。
- Q 4. 授業の進み方はあなたにとって適切でしたか。
- Q 5. 授業の難易度はどうでしたか。
- Q 6. 「講義内容・授業計画」はわかりやすかったですか。
- Q 7. 授業は「講義内容・授業計画」にそって進められましたか。

- Q 8. 教材・資料等は効果的に使われていましたか。
- Q 9. 担当教員の授業への取り組みには熱意が感じられましたか。
- Q10. 教え方はわかりやすかったですか。
- Q11. 教員の話し方の声量・速さは聞き取りやすかったですか。
- Q12. 板書やスライド等の資料提示は見やすかったですか。
- Q13. この授業を友人や後輩に勧めたいと思いますか。
- Q14. この授業について全体的な満足度をお聞かせください。
- Q15. 授業の開始時刻・終了時刻は守られていましたか。
- Q16. 休講は少なく通常通り、授業は実施されましたか。
- Q17. 教場は、この授業にあった広さでしたか。
- Q18. 雑音などがなく授業に集中できる教場でしたか。
- Q19. この授業の教場の温度はちょうど良かったですか。

表 1 - 2 講義科目

学部 学科 専攻	(経済学部)経済A	(経済学部)経済B	(経済学部)商	(法学部)法律A	(法学部)法律B	(法学部)政治	(経営学部)経営A	(経営学部)経営B	(医療健康科学部)	(GMS学部)	短期大学(国文)	短期大学(英文)	短期大学(仏教)
Q1	4.5	4.4	4.5	4.4	4.3	4.5	4.4	4.3	4.8	4.5	4.3	4.5	4.3
Q2	3.4	3.4	3.4	3.2	3.4	3.4	3.3	3.4	2.9	3.3	3.7	3.2	3.3
Q3	3.5	3.5	3.5	3.4	3.6	3.5	3.5	3.5	3.5	3.6	3.5	3.7	3.9
Q4	3.3	3.2	3.3	3.2	3.3	3.2	3.3	3.3	3.5	3.4	3.2	3.4	3.3
Q5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.6	3.6	3.7	3.5	3.3	3.5	3.4
Q6	3.3	3.4	3.3	3.3	3.4	3.3	3.3	3.4	3.2	3.4	3.5	3.5	3.8
Q7	3.5	3.6	3.6	3.5	3.7	3.5	3.6	3.7	3.4	3.6	3.7	3.8	3.9
Q8	3.5	3.6	3.6	3.4	3.7	3.6	3.6	3.6	3.6	3.8	3.9	4.0	4.0
Q9	3.8	4.0	3.9	3.9	4.0	3.8	3.9	3.9	3.8	4.0	4.3	4.2	4.4
Q10	3.3	3.6	3.4	3.3	3.6	3.4	3.4	3.5	3.4	3.6	3.7	3.7	4.0
Q11	3.4	3.7	3.5	3.4	3.6	3.3	3.5	3.5	3.4	3.6	3.9	3.6	4.1
Q12	3.1	3.3	3.2	3.1	3.2	3.2	3.3	3.3	3.3	3.5	3.5	3.5	3.9
Q13	3.3	3.5	3.3	3.3	3.5	3.4	3.4	3.5	3.4	3.6	3.7	3.5	4.0
Q14	3.4	3.6	3.4	3.4	3.6	3.5	3.5	3.5	3.4	3.6	3.8	3.7	4.2
Q15	3.8	3.8	3.9	3.9	3.7	3.7	3.8	3.8	3.9	3.8	3.8	3.9	3.9
Q16	3.9	3.9	3.9	3.9	3.9	3.9	3.9	3.9	3.9	3.9	3.9	4.0	3.8
Q17	3.7	3.8	3.8	3.7	3.8	3.7	3.9	3.9	3.8	3.6	3.9	4.0	4.0
Q18	3.6	3.8	3.6	3.8	3.9	3.8	3.8	3.9	3.7	3.7	3.9	4.1	3.8
Q19	3.5	3.6	3.5	3.5	3.6	3.5	3.6	3.6	3.6	3.4	3.5	3.6	3.5
有効回答数	4,215	1,408	2,695	3,170	950	2,393	3,664	1,109	1,207	815	227	211	27

表 2 - 1 実験・実習科目

学部 学科 専攻	仏 教学部 禅	仏 教学部 仏教	文学部 (国文)	文学部 (英米文)	文学部 (地域文化)	文学部 (地域環境)	文学部 (歴史)	文学部 (日本史学)	文学部 (外国史学)	文学部 (考古学)	文学部 (社会学)	文学部 (社会福祉学)	文学部 (心理)
Q1	4.4	4.4	5.0	5.0	4.9	4.9	4.8	5.0	5.0	4.9	4.7	4.9	4.9
Q2	3.5	3.2	4.0	4.0	3.4	3.4	4.2	4.1	4.8	3.9	3.5	3.1	2.8
Q3	3.8	3.8	4.6	4.7	4.0	4.1	4.5	4.7	4.8	4.2	3.6	4.2	4.0
Q4	2.9	3.0	3.0	3.0	3.3	3.4	3.1	3.0	3.0	3.1	3.2	3.1	4.0
Q5	3.3	3.4	3.1	3.3	3.3	3.5	3.9	3.4	3.3	3.5	3.7	3.1	4.1
Q6	3.6	3.6	3.9	4.3	3.4	3.7	3.7	3.9	3.5	3.4	3.3	3.6	3.2
Q7	3.9	3.9	3.9	4.3	3.7	3.9	3.9	3.9	3.3	3.7	3.7	3.8	3.5
Q8	3.9	3.8	3.7	4.0	3.9	4.3	4.1	4.4	4.3	3.9	3.5	4.1	4.1
Q9	4.2	4.2	4.3	4.3	4.3	4.1	4.5	4.5	4.5	4.0	4.0	4.6	4.2
Q10	3.9	3.6	4.0	4.7	3.9	4.0	4.1	4.2	4.3	3.6	3.5	4.4	3.5
Q11	4.1	3.9	4.0	5.0	3.9	4.0	4.2	4.0	4.8	3.8	3.8	4.3	3.9
Q12	3.4	3.5	3.3	4.7	3.6	3.8	3.6	3.5	4.0	3.6	3.3	4.1	3.4
Q13	3.5	3.4	3.7	5.0	3.8	3.8	3.5	3.8	4.0	3.6	3.3	4.2	3.1
Q14	3.6	3.6	4.3	4.7	3.9	4.0	3.9	4.2	4.0	3.8	3.6	4.3	3.6
Q15	3.9	3.8	4.0	4.0	3.8	4.0	3.8	3.7	4.0	3.8	3.7	4.0	3.9
Q16	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	3.9	3.7	4.0	4.0
Q17	4.4	4.5	4.6	5.0	4.3	4.3	4.2	4.6	4.5	3.7	4.1	3.6	4.3
Q18	4.0	4.4	4.3	5.0	4.1	4.3	4.0	4.7	4.5	3.9	4.0	4.1	4.4
Q19	3.3	3.4	3.9	4.7	3.8	3.6	3.5	3.7	4.3	3.5	3.9	3.8	3.7
有効回答数	59	112	7	3	36	32	15	10	4	34	48	252	69

- Q 1. あなたの出席率は何%ぐらいでしたか。
- Q 2. 履修にあたって「講義内容・授業計画」をよく読みましたか。
- Q 3. 授業に熱心に取り組みましたか。
- Q 4. 授業の進み方はあなたにとって適切でしたか。
- Q 5. 授業の難易度はどうでしたか。
- Q 6. 「講義内容・授業計画」はわかりやすかったですか。
- Q 7. 授業は「講義内容・授業計画」にそって進められましたか。
- Q 8. 教材・資料等の利用は実験や実習の理解に役立ちましたか。
- Q 9. 担当教員の授業への取り組みには熱意が感じられましたか。
- Q10. 教え方はわかりやすかったですか。
- Q11. 教員の話し方の声量・速さは聞き取りやすかったですか。
- Q12. 実験機材の使用等についての説明は、わかりやすかったですか。

- Q13. この授業を友人や後輩に勧めたいと思いますか。
- Q14. この授業について全体的な満足度をお聞かせください。
- Q15. 授業の開始時刻・終了時刻は守られていましたか。
- Q16. 休講は少なく通常通り、授業は実施されましたか。
- Q17. 教場は、この授業にあった広さでしたか。
- Q18. 雑音などがなく授業に集中できる教場でしたか。
- Q19. この授業の教場の温度はちょうど良かったですか。

表 2 - 2 実験・実習科目

学部 学科 専攻	経済学部(経済A)	経済学部(商)	法学部(法律A)	法学部(政治)	経営学部(経営A)	医療健康科学部()	(GM)学部()
Q1	4.7	4.8	4.2	3.8	5.0	4.9	5.0
Q2	3.8	3.2	3.3	3.3	4.0	3.7	3.3
Q3	4.7	4.2	3.5	3.9	4.0	4.1	4.3
Q4	3.3	3.2	2.8	3.0	3.0	3.6	3.0
Q5	2.7	2.8	2.8	2.9	4.0	4.0	3.0
Q6	4.0	3.3	3.2	3.8	3.0	3.4	3.7
Q7	4.0	3.6	3.8	3.9	4.0	3.7	3.7
Q8	4.3	3.3	2.8	3.8	3.0	3.8	3.7
Q9	4.5	4.4	3.8	4.0	5.0	3.7	4.3
Q10	4.5	3.8	3.2	3.7	5.0	3.4	4.7
Q11	4.7	3.7	2.8	3.1	4.0	3.5	4.3
Q12	4.0	3.6	3.2	3.2	3.0	3.3	4.0
Q13	4.2	4.2	3.6	4.3	4.0	3.6	4.3
Q14	4.2	4.2	3.4	4.0	4.0	3.5	4.3
Q15	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	3.3	4.0
Q16	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0
Q17	4.7	4.5	4.3	4.3	4.0	3.3	5.0
Q18	4.7	4.5	4.3	4.0	3.0	3.6	5.0
Q19	3.3	3.2	4.0	3.6	4.0	3.5	5.0
有効回答数	6	13	13	10	1	30	3

表 3 - 1 語学科目

学部 学科 専攻	仏教学部) 禅	仏教学部) 仏教	文学部) 国文	文学部) 英米文	文学部) 地域文化	文学部) 地域環境	文学部) 歴史	文学部) 日本史学	文学部) 外国史学	文学部) 考古学	文学部) 社会学	文学部) 社会福祉学	文学部) 心理
Q1	4.6	4.5	4.7	4.6	4.7	4.7	4.7	4.8	4.8	4.8	4.8	4.8	4.7
Q2	3.0	3.3	3.0	3.3	3.2	3.0	3.1	3.0	3.1	3.1	2.8	2.5	2.6
Q3	3.6	3.5	3.6	3.7	3.6	3.6	3.5	3.4	3.5	3.5	3.5	3.6	3.5
Q4	3.3	3.3	3.4	3.2	3.4	3.4	3.2	3.2	3.2	3.2	3.5	3.4	3.3
Q5	3.5	3.5	3.5	3.3	3.5	3.6	3.4	3.3	3.3	3.4	3.6	3.8	3.2
Q6	3.3	3.2	3.2	3.5	3.2	3.3	3.4	3.2	3.3	3.3	3.2	3.2	3.3
Q7	3.6	3.5	3.5	3.7	3.6	3.5	3.6	3.4	3.6	3.5	3.5	3.4	3.4
Q8	3.5	3.4	3.5	3.4	3.3	3.2	3.8	3.6	3.2	3.6	3.1	3.6	3.4
Q9	3.9	3.9	3.8	3.9	3.9	3.8	4.0	3.8	3.9	3.7	3.9	3.9	3.7
Q10	3.5	3.3	3.3	3.6	3.4	3.4	3.6	3.5	3.6	3.5	3.7	3.4	3.5
Q11	3.5	3.4	3.3	3.6	3.5	3.3	3.6	3.5	3.5	3.5	3.8	3.5	3.5
Q12	3.3	3.3	3.2	3.6	3.3	3.4	3.6	3.4	3.4	3.3	3.4	3.1	3.2
Q13	3.5	3.5	3.4	3.6	3.5	3.5	3.8	3.5	3.7	3.5	3.7	3.4	3.5
Q14	3.9	3.9	3.7	3.7	3.8	3.7	3.8	3.8	3.6	3.9	3.8	3.8	3.8
Q15	4.0	4.0	4.0	3.9	3.9	4.0	4.0	3.9	4.0	4.0	3.9	4.0	4.0
Q16	4.1	4.1	3.9	4.0	3.8	4.0	4.1	3.9	4.0	4.1	4.0	4.1	4.2
Q17	4.0	4.0	3.9	4.0	3.8	4.0	3.8	3.6	3.8	3.9	4.1	3.9	3.9
Q18	3.6	3.6	3.3	3.7	3.4	3.7	3.6	3.4	3.3	3.4	3.5	3.5	3.6
有効回答数	77	181	416	643	97	98	148	251	220	92	78	171	235

- Q 1. あなたの出席率は何%ぐらいでしたか。
- Q 2. 履修にあたって「講義内容・授業計画」をよく読みましたか。
- Q 3. 授業に熱心に取り組みましたか。
- Q 4. 授業の進み方はあなたにとって適切でしたか。
- Q 5. 授業の難易度はどうでしたか。
- Q 6. 「講義内容・授業計画」はわかりやすかったですか。
- Q 7. 授業は「講義内容・授業計画」にそって進められましたか。
- Q 8. 補助教材の視聴覚資料(カセット、ビデオ等)を効果的に取り入れていましたか。
- Q 9. 担当教員の授業への取り組みには熱意が感じられましたか。
- Q10. 教え方はわかりやすかったですか。
- Q11. 発音・速さは聞き取りやすかったですか。

- Q12. この授業を友人や後輩に勧めたいと思いますか。
- Q13. この授業について全体的な満足度をお聞かせください。
- Q14. 授業の開始時刻・終了時刻は守られていましたか。
- Q15. 休講は少なく通常通り、授業は実施されましたか。
- Q16. 教場は、この授業にあった広さでしたか。
- Q17. 雑音などがなく授業に集中できる教場でしたか。
- Q18. この授業の教場の温度はちょうど良かったですか。

表3 - 2 語学科目

学部・学科専攻	経済学部(経済A)	経済学部(経済B)	経済学部(商)	法学部(法律A)	法学部(法律B)	法学部(政治)	経営学部(経営A)	経営学部(経営B)	医療健康科学部)	(GMS学部)	短期大学(国文)	短期大学(英文)
Q1	4.6	4.5	4.6	4.6	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	3.9	4.5
Q2	3.1	3.1	3.1	2.9	3.2	2.9	3.0	3.1	4.0	3.2	3.6	3.5
Q3	3.6	3.6	3.6	3.5	3.7	3.5	3.7	3.6	5.0	3.8	3.4	3.5
Q4	3.3	3.2	3.3	3.1	3.1	3.2	3.2	3.3	3.0	3.2	3.5	3.5
Q5	3.3	3.4	3.4	3.2	3.2	3.2	3.3	3.3	2.0	3.4	3.5	4.0
Q6	3.2	3.4	3.3	3.3	3.3	3.3	3.3	3.3	4.0	3.3	3.4	3.0
Q7	3.5	3.5	3.6	3.5	3.6	3.6	3.5	3.6	5.0	3.6	3.7	3.5
Q8	3.3	3.0	3.3	3.5	3.2	3.6	3.4	3.0	5.0	3.7	2.7	2.0
Q9	3.8	3.8	3.8	3.9	4.1	4.0	3.9	3.7	5.0	4.2	4.5	4.5
Q10	3.4	3.4	3.4	3.5	3.6	3.5	3.4	3.3	5.0	3.7	3.7	4.0
Q11	3.4	3.3	3.3	3.5	3.5	3.5	3.5	3.4	5.0	3.8	3.6	4.0
Q12	3.2	3.3	3.3	3.4	3.5	3.4	3.3	3.1	5.0	3.6	3.5	2.5
Q13	3.4	3.5	3.4	3.6	3.6	3.5	3.5	3.3	5.0	3.7	3.9	3.5
Q14	3.7	3.9	3.8	3.8	3.9	3.9	3.7	3.7	4.0	3.9	3.7	2.5
Q15	4.0	3.9	3.9	3.9	4.0	4.0	3.9	3.9	4.0	3.9	4.0	4.0
Q16	3.9	4.4	4.2	4.0	4.0	4.1	4.0	4.1	4.5	4.3	4.3	3.5
Q17	3.8	3.9	4.1	3.9	4.0	3.8	4.0	3.8	5.0	4.3	4.1	4.0
Q18	3.6	3.7	3.7	3.5	3.5	3.5	3.6	3.6	4.0	3.7	3.6	3.0
有効回答数	669	141	324	690	106	291	677	171	2	112	11	2

表 4 保健体育実技科目

学部 学科 専攻	(文学部)英米文	(文学部)地域文化	(文学部)地域環境	(文学部)歴史	(文学部)日本史学	(文学部)外国史学	(文学部)考古学	(文学部)社会学	(文学部)社会福祉学	(文学部)心理	(経済学部)経済A
Q 1	4.0	5.0	4.9	5.0	4.7	4.2	4.1	4.9	4.8	5.0	4.5
Q 2	3.0	3.3	3.4	3.3	2.8	3.0	3.4	2.9	2.1	2.8	2.9
Q 3	3.3	4.6	4.2	4.3	4.1	3.9	3.9	4.1	3.9	4.3	3.8
Q 4	3.0	3.1	3.4	3.0	2.9	2.8	3.3	3.4	3.6	3.5	3.0
Q 5	3.0	3.6	3.6	2.5	2.7	2.7	2.9	3.5	3.8	3.7	2.9
Q 6	4.0	4.0	3.9	3.5	3.4	3.7	3.5	3.7	3.3	3.7	3.7
Q 7	4.3	4.9	4.4	4.0	3.7	4.2	4.0	4.4	4.4	4.5	3.9
Q 8	4.0	4.6	4.3	3.8	3.6	3.9	3.8	4.1	4.0	3.9	3.8
Q 9	3.3	4.6	4.2	3.8	3.6	3.6	3.9	4.1	4.0	4.1	3.9
Q10	3.7	3.9	3.7	3.0	3.5	3.4	3.5	3.7	3.2	3.4	3.6
Q11	4.0	4.3	3.9	3.0	3.7	3.8	3.9	3.7	4.0	3.9	3.6
Q12	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	3.8
Q13	4.0	3.6	3.7	4.0	4.0	4.0	4.0	3.6	3.7	3.8	4.0
Q14	4.7	4.5	4.3	3.8	3.8	3.9	3.9	4.2	3.9	3.8	3.8
Q15	4.7	4.4	3.9	3.3	3.7	4.1	3.9	4.1	4.3	4.2	3.6
Q16	4.0	4.1	3.6	3.5	2.9	3.5	3.6	3.9	3.8	3.2	3.0
有効回答数	3	8	19	4	11	11	8	14	9	12	17

- Q 1. あなたの出席率は何%ぐらいでしたか。
- Q 2. 履修にあたって「講義内容・授業計画」をよく読みましたか。
- Q 3. 授業時間中は実技に集中し、熱心に取り組みましたか。
- Q 4. 授業の進み方はあなたにとって適切でしたか。
- Q 5. 授業の難易度はどうでしたか。
- Q 6. 授業は「講義内容・授業計画」にそって進められましたか。
- Q 7. 担当教員の授業への取り組みには熱意が感じられましたか。
- Q 8. 教え方はわかりやすかったですか。
- Q 9. 器具・用具について適切な説明がなされましたか。
- Q10. この授業を友人や後輩に勧めたいと思いますか。
- Q11. この授業について全体的な満足度をお聞かせください。
- Q12. 授業の開始時刻・終了時刻は守られていましたか。
- Q13. 休講は少なく通常通り、授業は実施されましたか。
- Q14. 教場は、この授業にあった広さでしたか。

Q15. 雑音などがなく授業に集中できる教場でしたか。

Q16. この授業の教場の温度はちょうど良かったですか。

「授業アンケート」について

FD推進委員会委員としての年を振り返って

仏教学部教授 佐藤 秀孝

FD推進委員会委員として1年間を過ごしたが、私自身、委員になるまでFD活動にほとんど関心を示さなかったのが実情である。そもそも大学の教員には決まった授業法があるわけではないから、それぞれ自分の専門分野に沿った内容を独自に工夫しながら授業をこなしていく以外にない。勢い学生を相手に独断的に脱線した授業ともなり易い。私自身、学生がどれほど自分の授業を理解しているのか、いま行っている授業のやり方が正しいのか否か、何ら把握できないまま徒に歳月を重ねてきた感がある。

授業アンケートによって自分の授業がどれほどの評価を得ているのがあらわになる。同じ授業でも学生によって受け取る印象がかなり相違しているものだと感じたし、安易に妥協してマンネリ化している自分に気づかされたのも事実である。FD研修会では学生に興味を持たせるため授業の工夫が必要なこと、多くの努力を傾けて真摯に授業に取り組む第一線の教員の姿勢などを学ばせて頂いた。公開授業は残念ながら仏教学部では実施することができなかった。同分野の教員に自分の授業を見られるのは、それなりの覚悟が必要であろう。教員間の質的向上と相互理解を深める上で、FD活動に対して色々と自分なりに考えさせられた1年であった。

アンケートのさらなる活用を

文学部講師 杉山 清彦

FDの一環としての「授業アンケート」が今秋も行なわれ、早くも後期のうちに結果が通知されてきた。アンケートは、学生にとって意見表明が制度的に保障され、かつ公平・均一に与えられた、唯一の機会といってよい。私自身はアンケートに答える側から配る側にまわってそれほど経っていない(と思っている)が、書く側・書かれる側いずれの立場から考えても、有益であると実感する。

とはいえ、本学のFD事業・「授業アンケート」も開始から3年を経過しており、COE・大型科研などならば中間評価を受ける時期といえよう。そこで、この試みの次なる課題を自分なりに挙げてみたい。一つ考えられるのは、アンケートのもつ「目安箱」的役割を活かすことである。現在、アンケートの利用目的を教員本人の個人利用と限定していることは一つの見識といえるが、過去のニューズレターにも指摘があるように、施設上の問題など教員個人の責ではない事柄が質問項目にふくまれている。しかし現状では、この種の項目に対する回答や自由記述欄における同種の要望 しばしば有用な を吸い上げるようにはなっていない。真に学生への還元をめざすならば、教員個々人へのフィードバックを通しての学生への還元だけでなく、教員の個人利用という基本的枠組みを守りつつ、大学組織レベルで改善に取り組むべき要望・課題を別途すくい上げる方策も検討しなくてはならないであろう。その機会としても、アンケートの果たす役割は小さくないものと思われる。

一つの想念

経済学部教授 吉野 紀

FD活動は多面的な諸相を有することは論を俟たないし、授業アンケートがその一部であることも首肯されよう。授業を提供する側にとって、自己に向けて省みるよすがとすること自体、異論を唱えようがない。その前提の下で、このことと共生あって然るべしと思われるのは、もう一方の受け手の側の、他に向けての批評にとどまらずに自らに向けても省みようとする姿勢である。両者の協調の中で共に更なる高みを目指す取り組みでありたいと願う。

飲み下し易い砂糖漬けにして提供する猶予はないし、ここまでは到達して欲しいとの力みが先走るでは、孤高を保つ、とは聞こえはよいが、弱い人間のこと、往々にして独善に墮す。『三太郎の日記』や『善の研究』といったかつて大学生の聖書と呼ばれた書が消えて久しい。古の残滓を引きずり懐かしむ老いたる人間は黙して消え去るのみであろうか。

授業アンケートについて

法学部助教授 三竹 直哉

授業アンケートが行われるようになって三年になります。学生からのフィードバックが何らかの形で保証されるのはよいことだと思います。ただ、現状には改善すべき点もあると思います。ぜひご検討いただければ幸いです。

まず、毎年行うことが当然視されていますが、標準化した質問紙で一斉にやるアンケートを毎年やる必要があるのでしょうか。先行して始めた大学ではすでに問題になっているところもあると聞きますが、毎年やっている、教員にとっても学生にとっても、どうしてもマンネリ化しがちです。実際、すでに似たり寄つたりの反応になってきており、個人的には得るところがなくなっています。毎年かけているコスト（手間や時間を含め）に見合うものがほんとうに得られているのでしょうか。

そもそも標準化した質問紙では、「早過ぎる」「わかりにくい」などと言われても、何が原因なのかわかりません。高校や中学校の学習内容が欠けている学生が増えている現状ではなおのことです。

無記名の標準化アンケートは四年に一回程度にし、毎年やるのは記名・記述式のアンケートにしたほうが生産的ではないでしょうか。実際、記名・記述式のアンケートを自分で行っている授業では、「建設的な意見を」と指示しておく、それなりに考えて提案を書いてくる学生がおり、参考になります。記名式にすることによって無責任な書き方もなくなります。

また、実施時期について、ぜひ学年末とすることを教員が選べるようにしていただきたいです。結果は翌年の授業にいかせばよいのです、そのほうが自然なはず。少なくとも希望する教員には、学年末も選べるようにしていただきたいと思います。

FD活動の現状と課題

経営学部助教授 中村 公一

今年度のFD推進委員会の委員になることにより、本学ではさまざまなFD活動を積極的に実践していることが体験できた。FDというと、授業アンケートにのみ意識が行きか

ちであるが、公開授業、研修会、このニュースレターなど、いつも教壇に立たれている先生方から学ぶ機会も多く存在するのである。

こうした一連のFD活動によって、自分の授業の評価や、優れた実践方法については認識できた。しかし、それらをどのように改善点として取り入れていくかは、また別問題である。授業方法の改善、授業内容の充実、学生とのコミュニケーションの活発化など多岐に渡り、難しい課題である。

また、全学的には、過去から蓄積されているFDについての「知」を教職員間で共有して、より優れたアプローチを検討していくことも今後の課題であるとする。例えば、どのようなことを学生は望む傾向にあるのか？大教室講義の不満はどのような所にあるのか？などを把握して、解決案を検討していくことなどである。

睡魔に勝つための授業づくり・・・

医療健康科学部講師 奥山 康男

「スヤスヤ・・・ムニャムニャ～」と、あちらこちらから学生の寝息が聞こえて来る3時限目の授業。この時間帯の授業を受け持つ先生が必ずや経験しているであろう「起こすべきか」、「寝かせておくべきか」の選択。私は、週3回もこの時間帯の授業を受け持っている。この授業時間帯は「学生に眠気が襲う魔の午後1:00」と言っても過言ではない。ヒソヒソとお喋りをされるよりは、静かに寝てもらった方が講義を進行する上では楽である。しかし、医療人を育成（卒業後は病院勤務を希望する学生が多数）している本学部としては、多くの知識や技術を学生に習得させたいので授業中に昼寝をさせる余裕など全く無い。大切な患者さんの生命を左右する画像検査や放射線治療を施す医療人になるには、motivationを落とすことなく卒業後も貪欲に学習意欲を持続しなければならない。そのためにも大学の授業は90分間の集中力を養う場でもあるのだが、昼食を終えたこの時間帯の学生の殆どが机に頭を落としている。国家試験を含めて将来必ず重要となってくる多科目があるなかで、学生が睡魔に負けず興味をそそる授業づくりの構築が自分の課題となっている。

そもそも昼食後に眠いのはなぜか？・・・私たちの意識の中には1日を周期とするリズムがあり、そのリズムが眠気を

左右するのである。昼食を取る、取らないにかかわらず昼過ぎの時間帯に眠気が少し高まる。すなわち、眠気には半日を周期とするリズムがあり、睡魔はそこに忍び寄って来るのである。ただ、昼食の摂取とのかかわりを記したが実際に食物は消化された後、腸管から栄養素として吸収される。栄養素のうちブドウ糖は血管を通過して脳に入り、脳の中の食欲を掌る部分に作用してくる。そうすると満腹感を感じる満腹物質が出てくるが、この満腹物質にはお腹いっぱい信号のみならず睡眠物質として眠気を高める作用も持っているのである。昼食後に眠くなるのは、満腹物質の効果と睡眠サイクルがたまたま昼食後に重複するからである。瞼が閉じないよう一生懸命努力している学生も何人かは見られるが、やはり密かに忍び寄る睡魔には勝てない。

すなわち、3時限目の授業は勉強が身につくという点では、とても非効果的な時間帯なのである。思い切って3時限目は全学教室内拘束形の「癒し系音楽付お昼寝タイム」で頭をスッキリさせてから、4時限目に移行するというのも1案かもしれない。FDアンケートによる学生の意見でも、3時限目の授業は「眠たくて、起きているのが精一杯で授業内容は頭の中に入らない」という回答が多い。

学生が睡魔に勝つ有用的な授業づくり・・・今の私の課題である。

授業アンケートの目的について考える

グローバル・メディア・スタディーズ学部教授

苗村 憲司

授業アンケートの進め方について議論する過程で、前提となるべき実施目的が明確でないとの指摘があった。

平成18年6月に文部科学省が公表した「大学における教育内容等の改革状況について」では、授業の質を高めるための具体的取り組みの一つとして「学生による授業評価」が挙げられ、これと並んで、セメスター制、少人数教育、シラバス、ティーチング・アシスタント(TA)の活用、単位の上限設定、厳格な成績評価、およびファカルティ・ディベロップメント(FD)が掲げられている。このことから、授業評価の目的が授業の質を高めることにあるとしても、その実施が直ちに目的達成に繋がらないことは明らかである。この報告でも、平成16年度までに国公立大学の97%がこれを実施してい

る一方で、その結果を改革に反映させる組織的取り組みが行われている大学は40%に過ぎないと書かれている。この現状を改善するためには、評価結果を反映させる直接の目標を明確にする必要がある。

本学では授業アンケートをFDの一環として位置づけ、各教員がその実施結果を授業内容改善のための資料として活用することになっている。しかし、文部科学省報告の趣旨からすれば、その結果を授業期間、履修学生数制限、単位制度、TA制度の拡充等に反映させることも必要であろう。また、国内外の他大学における授業評価の目標は多様である。例えば、学生側から見て、選択科目の選択(複数の教員が同じ科目を担当する場合であれば教員の選択)において判断材料とすることが挙げられる。大学側としては、教員の昇任・昇給、非常勤・有期契約教員の契約更新等の人事判断に役立てることが挙げられている。

本学における授業アンケートの改善について検討する際には、最終的な目的の確認に加えて、これらの直接的な目標を明確化することが緊急の課題ではないだろうか。

「わかりやすさ」という授業観の落とし穴

総合教育研究部助教授 萩原 建次郎

「学生による授業アンケート」では、「教え方はわかりやすかったですか」「『講義内容・授業計画』はわかりやすかったですか」といった評価項目があります。この評価項目を見るたびに、私は「わかりやすさ」って何だろうと立ち止まります。

教え・伝える内容と方法は、「わかりやすさ」には還元しきれないものもあるはずですが。例えば「今すぐにはわからない曖昧さに耐えながら、『わかろう』とする知的努力や忍耐力を養いたい」と願う授業だとしたらどうなるのでしょうか? そういう授業は、授業者の意図や願いそのものが伝わりにくい、すなわちわかりにくい授業として、低い評価になることは容易に想像されます。また、体験的な授業の場合は、体験したことの意味や価値の発見には、ある時間の成熟が求められる場合もあります。外国語を習得するにしても、最初は読んでも歯が立たなかった内容も、何度も辞書を引きながら、繰り返し忍耐強く訳を続けていくことで、あるとき飛躍的にわかる瞬間が来たりします。

もし「わかりやすい授業がよい授業」という評価基準が一般化されれば、かえって授業観の単純化・平板化を生み、このような「学び」の奥行きや多様性が損なわれてしまわないでしょうか。授業をよりよくするという事は、画一的な授業モデルを前提として測るのではなく、学生達にとって多様で奥行きのある「学び」の場となることを目指して、具体的な授業展開を練り上げていく営みであるように私は思います。

短期大学国文科の F D 活動

短期大学国文科教授 坂口 博規

国文科所属教員が今年度より総合教育研究部日本文化部門所属を兼務する立場から、平成 18 年度アンケートには日本文化部門担当教養教育科目において実施した者もいた。今年度新生対象の「フレッシュマンセミナー」や過年度入学生を含めて対象とする「日本文化研究 A」「日本言語文化研究 A」の科目等は、短大生以外の学生を初めて担当した科目であり、その点では、授業アンケートは、今後の授業内容を工夫する上で大いに参考となるデータを提供してくれるものであった。即ちニーズの把握をすることも大切であり、更に学生が積極的に授業に取り組む姿勢を作り上げることに、今年度先ず着手したと言うのが総括となる。

学生アンケートに想う

短期大学仏教科教授 奥野 光賢

学生は安くはない授業料を支払って授業を受けているわけであるから、その対価として授業を評価することは今日においてはいわば学生の当然の権利なのであろう。実際、学生によってなされた「授業アンケート」の結果を見ると、自ら顧みてなるほどとうなずく点や反省させられることが多々あり、これからの授業を考える上で参考になる意見が少なくない。しかし反面、次のような思いも私にはある。今回、授業アンケートの対象となった私の授業の 1 つは 2 年次から選択できるいわゆる「選択科目」であったが、履修している学年にバラツキがあるせいか、受講している学生の問題意識、既習得の知識にも明らかなバラツキが認められた。近年頃に学生の「学力格差」はますます顕著になってきたように

思われ、そのような状況の中ですべての学生の要求を満たす授業を展開するにはどのようにすれば良いのかと煩悶している。授業アンケートとともに学生の学ぶ姿勢・学力も厳しく問われなければならないと思うものである。

編集後記

今回各学部から授業アンケートについて設問項目、実施方法、アンケート結果の利用方法等を含め貴重な意見を頂きました。ご多忙にも関わらず原稿をお寄せいただいた先生方には心から感謝申し上げます。

授業アンケートの設問項目は F D 委員会で何度も議論を重ね作成されたものですが、昨年からの指摘されている部分については見直す必要があるかと思えます。実施方法については(財)大学基準協会からも全科目を対象にするよう助言があり、その時期に来ているかも知れません。アンケートの有効利用については今のところ個人の裁量に委ねられているのが現状です。委員会としても何らかの形で方策を考えなければなりません。

授業アンケート開始当初は学生が回答することに対して一部から批判がありましたが、開始から 3 年経過して今や全学的に認知されてきたようです。この領域は一般社会とは異なる聖域でも何でもありません。授業をひとつの商品として、学生はそのユーザー、モニターとして考えれば、有意義な機能が働いていると思えます。F D 活動は即効的な効果は望めませんが、皆で継続して行きましょう。

(高野 秀夫、西尾 誠示)

【タイトル横の写真：深沢校舎】

F D NEWSLETTER Mar.2007 第 10 号

発行日：2007 年 3 月 20 日

発行者：駒澤大学 F D 推進委員会

〒154-8525 東京都世田谷区駒沢 1-23-1

03-3418-9867 Fax 03-3418-9037

(事務局：総合企画室)